

## 【MedSci Forum】平成20年度 学位記授与式 学類長式辞

浦山 修 (医療科学類長)

本日、医学専門学群看護・医療科学類医療科学主専攻を卒業してゆく40名の皆さん、卒業おめでとうございます。保護者の方々にも、心よりお祝い申し上げます。

皆さんは三期生として、この学び舎を巣立っていきます。皆さん方の多数が入学した平成17年は看護・医療科学類が発足して3年目、17年5月からの全学的な学類再編の取り組みの中で、医療科学と看護学は、コメディカルとしての括りではなく、それぞれの学問と教育体系に応じた枠組みによって教育を行うことになり、1年間の準備ののち、19年度から医療科学類がスタートしました。入試の志願者をみると、学類の教育目標が、受験生や社会に徐々に浸透してきているのが分かります。皆さんは医療科学という新しい4年制教育の構築途中の勉学を余儀なくされましたが、今日、ここに、卒業の晴れの日を迎えることができました。皆さんのこれまでの頑張りに、まず敬意を表します。

あっという間の4年間の学生生活だったのではないのでしょうか。先日、“イマドキ”の高校生というある調査結果を見る機会がありました。最近の高校生は、自分の将来について、「夢を見つけて夢を実現し、好きな仕事に就くことが良い生き方」と思っていますが、「今はまだその夢が見つからないので、とりあえず大学に行って自分の可能性を拡げたい」と考えているそうです。4年前を思い出してください。もし皆さんも

同じ考えをもっていたとしたら、ここつくばで、“探した夢”は見つかったのでしょうか。

今年度も、皆さんの就職活動の応援のために、紹介状や推薦状を何通か書きました。推薦するにあたって、まず「将来どうしたいのか」を聞きました。すると時々「病院で臨床検査技師として働きたい」という答が返ってきました。これでは、「夢(人生の目標)がまだ見つからないな」と心配になりました。

夢というと、私は、ドイツのハインリヒ・シュリーマンの書いた『古代への情熱』という本を思い出します。皆さんも読んだことがありますか。少年時代に父親からホメロスの英雄の働きぶりやトロイ戦役の話を知り、古代トロイの城壁の絵を見て「この城壁が跡形もなくなることはありません、きっと長い間に地中深く埋もれてしまったのだ」と考える中で、シュリーマン少年は次第にトロイを発掘する夢を抱くようになっていきました。しかし家庭の事情から中学校を出て働かざるをえなくなり、また発掘という一大事業のために多額の資金が必要と考えて、実業家となりました。財をなすと今度は語学の勉強です。英語、フランス語、ギリシャ語と次々に独学で十数ヶ国語を習得していきました。40歳になって、経済活動から身をひき、いよいよ古代遺跡の発掘にとりかかります。小アジアのヒツサリックの丘を鍬と鋤をもって掘りはじめ、そこがトロイの地、すなわちホメロスの歌の世界、であることを世界に

実証しました。彼にとって、経済力をつけることも語学を習得することも夢を実現する準備であったわけです。

皆さんにとって、臨床検査技師の資格を取り職に就くことは(大学院に進学する人も同じですが)、これから社会を生き抜くための一つの準備(手段)であって、その向こう側に夢があるものと信じます。私は、医療科学を修めた皆さんに、人々の生命をまもり健康で安全な社会の実現のために、仲間とともに活動する夢を持つことを希望します。

ご存知のように、国際感染症の脅威や生活習慣病が増加する中で、近年医療サービスのあり方がすっかり変わってしまいました。一方で、診療における医師優位への反省があり、患者さんの生きる権利が尊重されるようになりました。医療サービスの変化の好い例がチーム医療です。チーム医療とは、医師、看護師、臨床検査技師、管理栄養士、薬剤師などそれぞれの専門職が、協力して効率的な医療かつ患者さんに安心と満足を提供し、患者さんの生きる力を引き出す取り組みをいいます。チーム医療というと、ICT、NST、糖尿病教室などが思い浮かびますが、実際にはそれらのチームを支える社会的チーム医療というような取り組みもまた存在します。例えば、新薬や食品の開発チームまた診断・治療技術の研究開発チームなどが医療機関と連携しています。またカウンセラーのような各種コンサルテーションの仕事もあります。チーム医療を、英語では Inter-professional working と言いますが、まさに専門職同士の共同作業ですね。検査畑では、Laboratory accreditation(検査室の質の保証)のような仕事で世界を飛び回

っている臨床検査技師も出てきています。今、医学・医療の世界とその周辺には、様々な専門職が誕生しているのです。よく時代や社会の動きをみて、皆さんがそれぞれの天職というようなものを見つけて欲しいと思います。

NHK の日曜の夕方の番組「海外ネットワーク」の最後に、毎回、世界の子どもたちが登場します。インド、マレーシア、ロシア・・・、子どもたちは「医者になって病気の人を助けてあげたい」とか「お金持ちになってお母さんを楽しませてあげたい」など様々な夢を語っています。皆さんも「決して遅くはありません、夢を見てその夢を育ててください」、皆さんの未来に幸多きことを祈り、はなむけの言葉とします。

平成21年3月25日

看護・医療科学類 医療科学主専攻長

浦山 修